

■■■反射材の普及活用に関する調査研究結果概要■■■



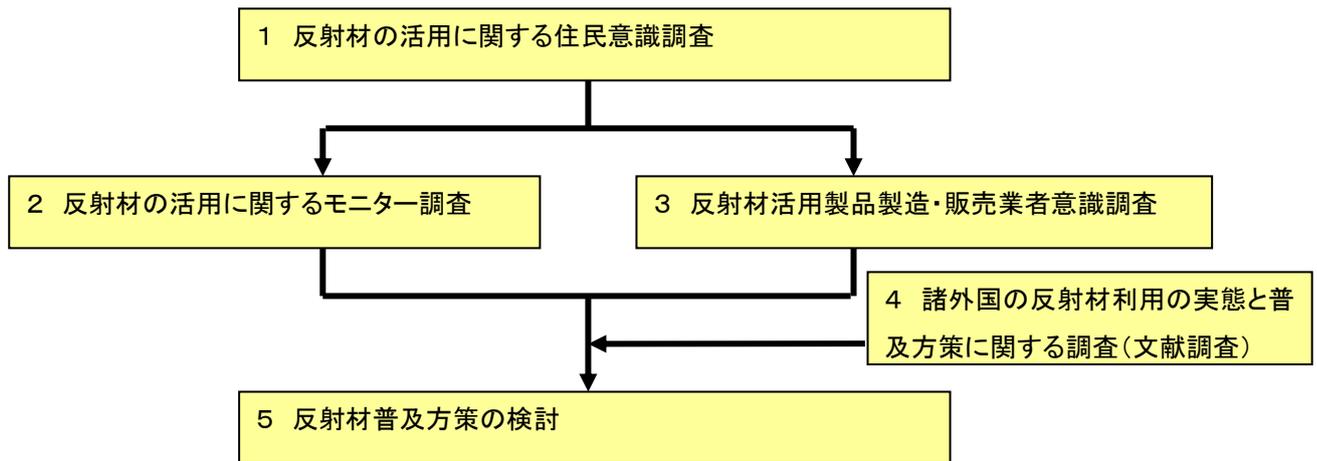
財団法人 全日本交通安全協会

I 調査の概要

【目的と実施概要】

- ・今後の反射材普及促進施策に役立てるため、国民・事業者に対する意識調査や海外の活用実態等の調査を実施し、反射材への国民の意識や事業者の普及への取り組み状況、参考となる海外の取り組みなどを把握し、反射材普及促進のための施策を検討するための基礎資料として取りまとめた。

<調査フロー>



II 反射材の活用に関する住民意識調査結果

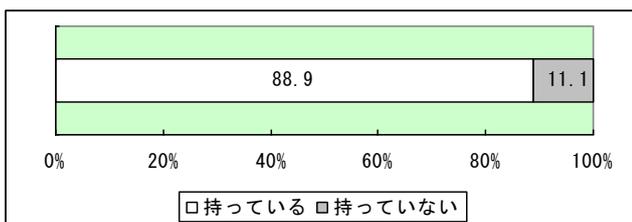
【目的と実施概要】

- *目的：反射材用品に対する人々の意識を明らかにし、普及に向けた対応の検討の基礎的資料とする
- *手法とサンプル数：WEB アンケート、回収 1,001 サンプル（無作為抽出）
- *対象地域：宮城県、東京都、千葉県、静岡県、愛知県、京都府、香川県、熊本県

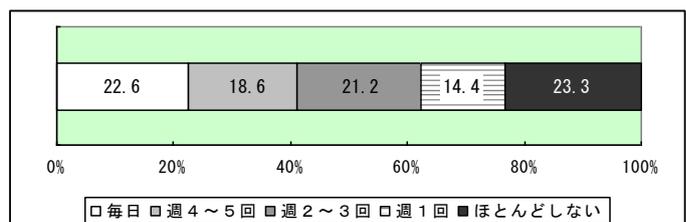
回答者基本属性

- ・回答者は約9割が自動車やオートバイの運転免許を保有している。
- ・回答者の8割弱は週1回以上夜間に外出している。

図表1 運転免許保有の有無 (N=1001)



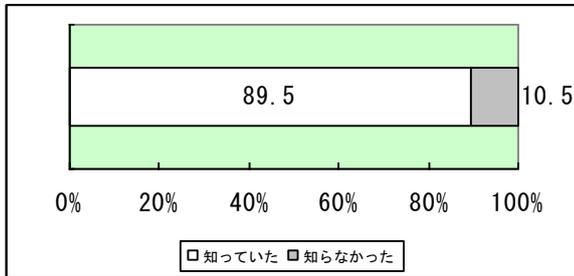
図表2 夜間外出頻度 (N=1001)



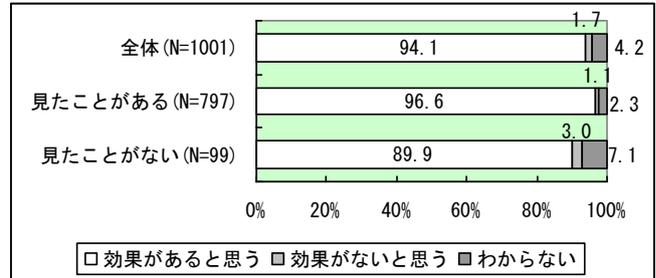
反射材の認知度は高いが実際に使用している歩行者は約2割

- ・89.5%が反射材を知っており、94.1%が安全性向上に効果があると感じている。
- ・しかし、実際に使用している人は2割程度であり、使用しない理由は面倒くさいがもっとも多い。
- ・また、反射材用品を身につけている人を見たことがない人は効果があると感じている割合が低い。

図表3 反射材用品の認知度 (N=1,001)

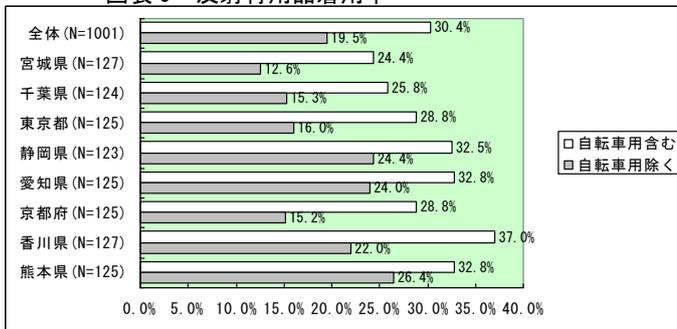


図表4 見た経験の有無別夜間安全性向上効果の評価 (N=1,001)

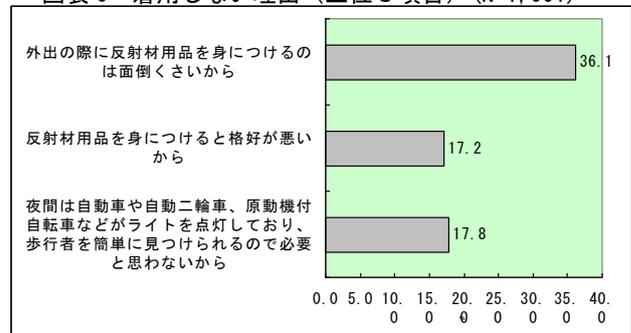


0

図表5 反射材用品着用率



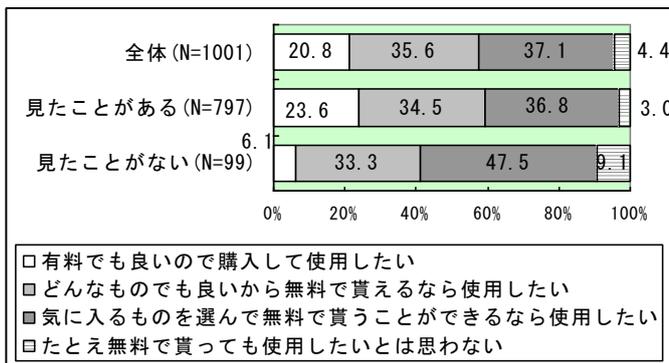
図表6 着用しない理由 (上位3項目) (N=1,001)



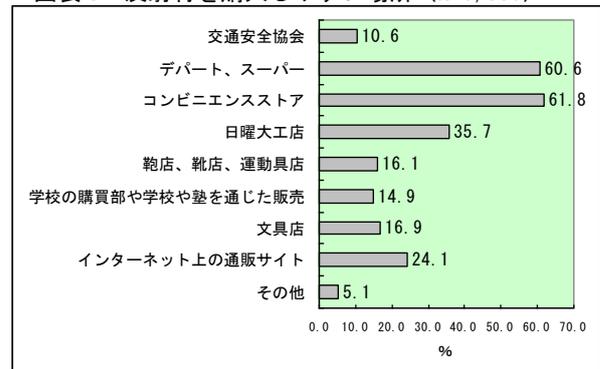
今後の利用は高いが有料でも良いから利用したいという人は約2割

- ・93.4%が今後は反射材を使用したいとしているが、有料でも良いと考える人は約2割である。また、反射材用品を身につけている人を見たことがない人では、有料でも良い人は6.1%にとどまる。
- ・反射材用品を購入しやすい場所はコンビニやデパート、スーパーであるとされている。
- ・反射材用品への改善要望はもっと身につけた格好の良いものにして欲しいとの意見が多い。

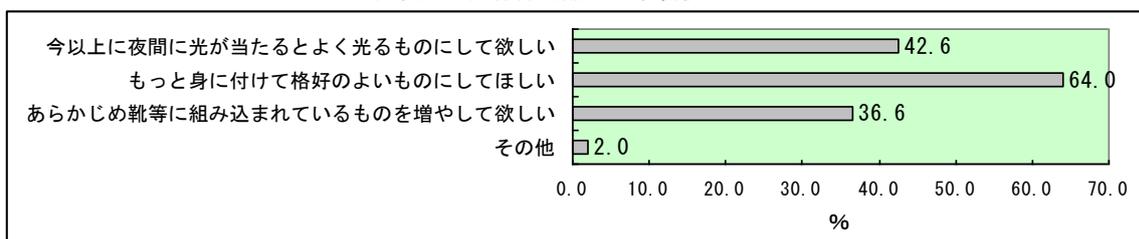
図表7 見た経験の有無別反射材用品の今後の利用意向



図表8 反射材を購入しやすい場所 (N=1,001)



図表9 反射材用品への改善要望



III 反射材の活用に関するモニター調査結果

【目的と実施概要】

- * 目的：反射材用品を使用した人の感想や意見を把握し、普及に向けた実践的課題を明らかにする
- * 手法とサンプル数：WEB アンケート、回収 146（無作為抽出）
- * 対象地域：東京都、千葉県、静岡県、京都府、香川県、熊本県

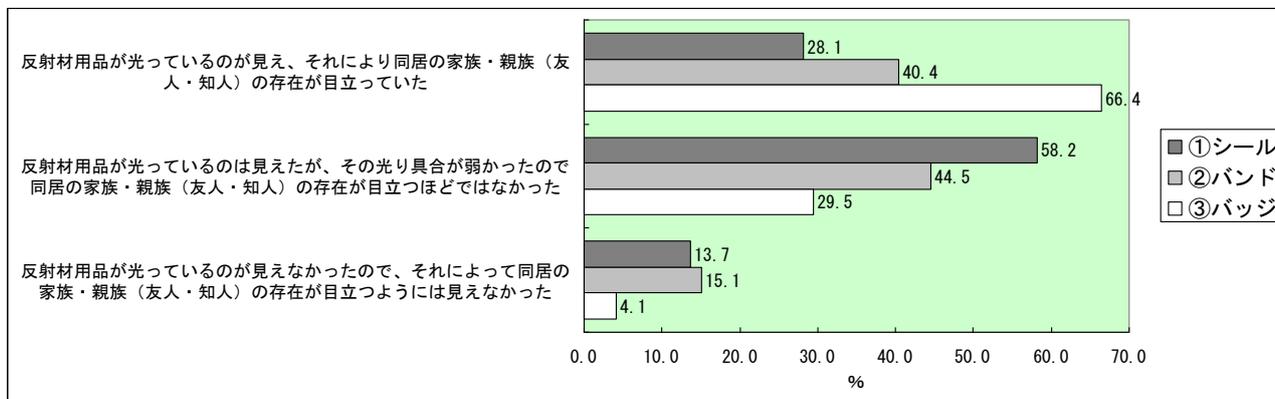
反射輝度が高い用品ほど視認性向上効果の評価や必要性の認識が高い

- ・ 3種類の製品を実際に使用した上で評価や感想を把握した。
- ・ 夜間視認性向上効果は反射輝度が高い用品ほど高かった。
- ・ 実際に使用した上で感じた反射材用品の必要性の認識も、反射輝度が最も高い用品が最も高かった。

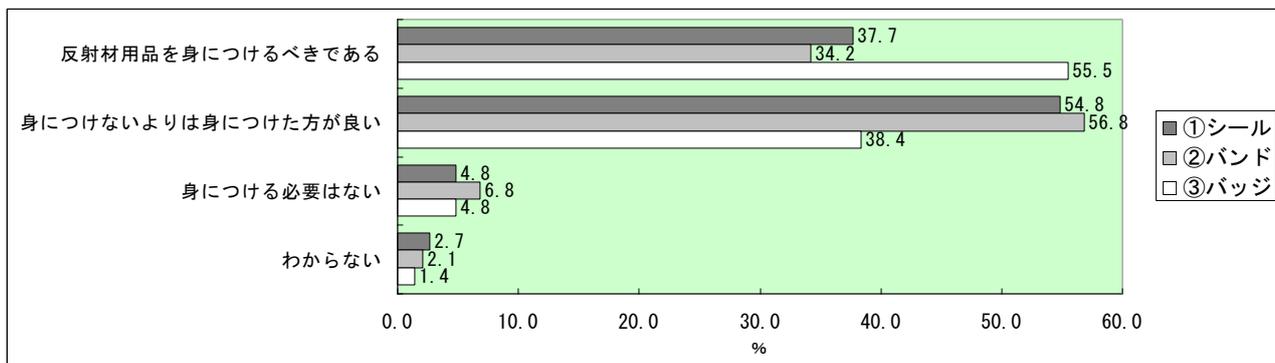
図表 10 モニター対象とした反射材用品の概要

	装着方式	使用イメージ	反射輝度(MCD/LUX)
①シール	貼り付け	靴や鞆などに貼り付け使用	188
②バンド	巻き付け(ホック式)	腕や足首、鞆などに巻いて使用	242
③バッジ	クリップ	鞆や服などに取り付けて使用	2,270

図表 11 反射材用品の夜間視認性向上効果の評価(他者に装着してもらってモニターが観察した感想)(N=146)



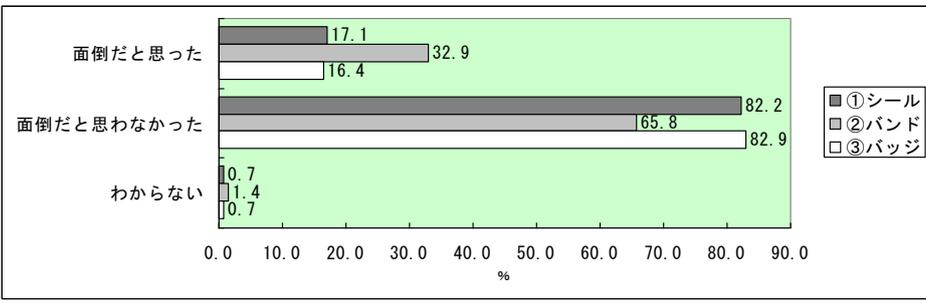
図表 12 実際に使用した上で感じた反射材用品の必要性 (N=146)



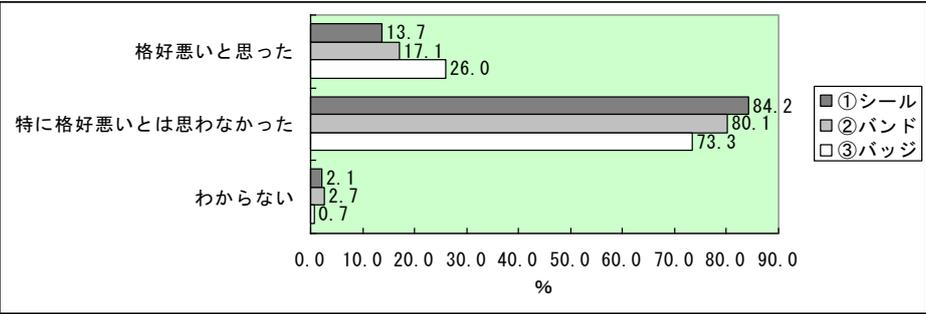
装着が面倒、格好悪い、邪魔といった面でのマイナス評価はそれほど大きくない

- ・装着が面倒という意見は、ホック式のバンドでやや多いものの、他では約8割がそう感じていない
- ・格好悪いという意見は、バッジでやや高いものの、約7~8割はそう感じていない。
- ・邪魔だという意見は、シールではほとんど無く、他でも約8割はそう感じていない。

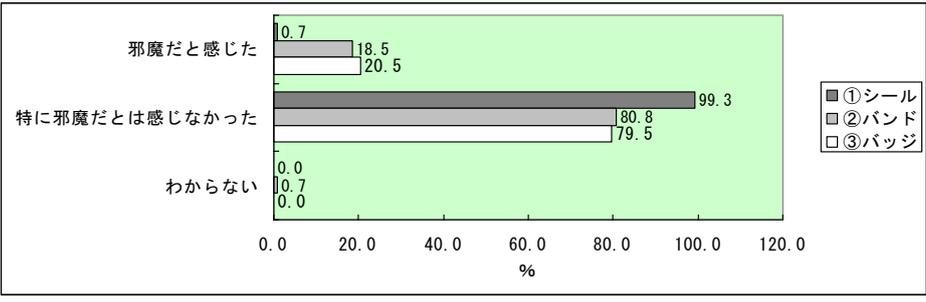
図表 13 装着を面倒と感じたか
(N=146)



図表 14 格好悪いと感じたか
(N=146)



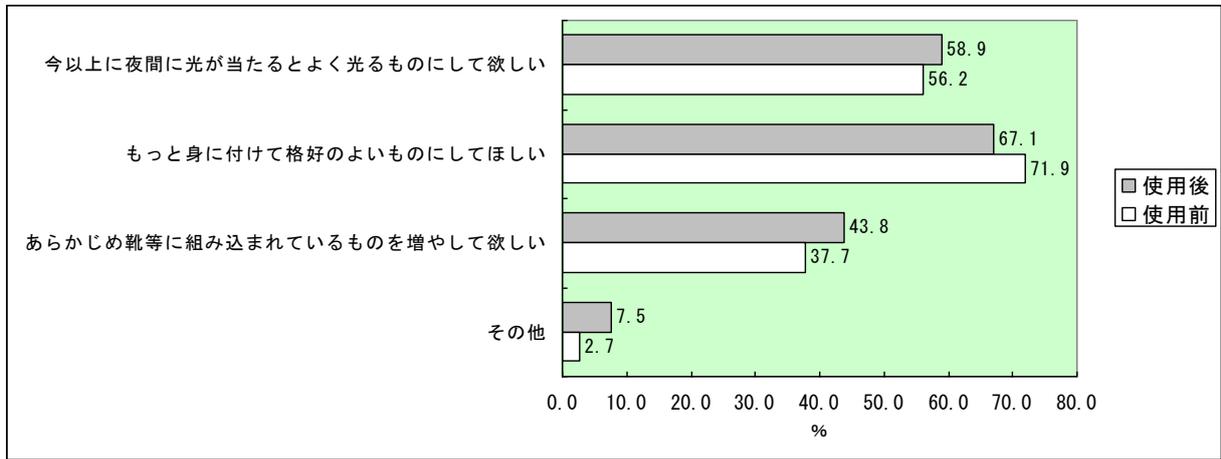
図表 15 邪魔だと感じたか
(N=146)



実際に使った後では、より光るもの、あらかじめ組み込まれているものへのニーズがやや高まる

- ・反射材用品への改善要望を、実際に反射材用品を使用する前と後で比較すると、今以上に光るものにして欲しい、もっと格好良いものにして欲しいという要望がやや高くなっている。

図表 16 反射材用品への改善要望（使用前使用後の意向の変化）(N=146)



IV

反射材活用製品の製造・販売業者に対する意識調査結果

【目的と実施概要】

*目的：サプライヤーの消費者ニーズの把握状況や反射材普及に向けた対応策島の意向を把握するとともに、住民意識調査結果との比較からその意識の差を明らかにする。

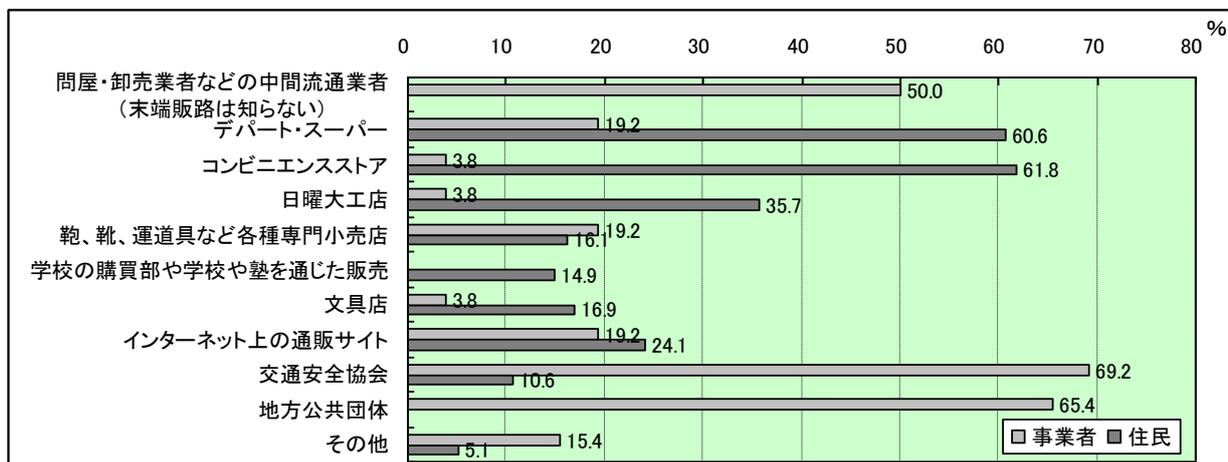
*手法とサンプル数：郵送留置アンケート方式、回収 27（うち製造事業者 26）

※大手量販店からの回収は 1 票にとどまったため、以下の集計は製造事業者からの回答のみ扱う

事業者の実際の販路と住民が購入しやすいと考える販売場所は大きく乖離している

- ・事業者の主な販路は交通安全協会、地方公共団体、昼間流通業者が大半を占める。
- ・住民が購入しやすいと考えるデパート・スーパー、コンビニエンスストアへの販売は少ない。

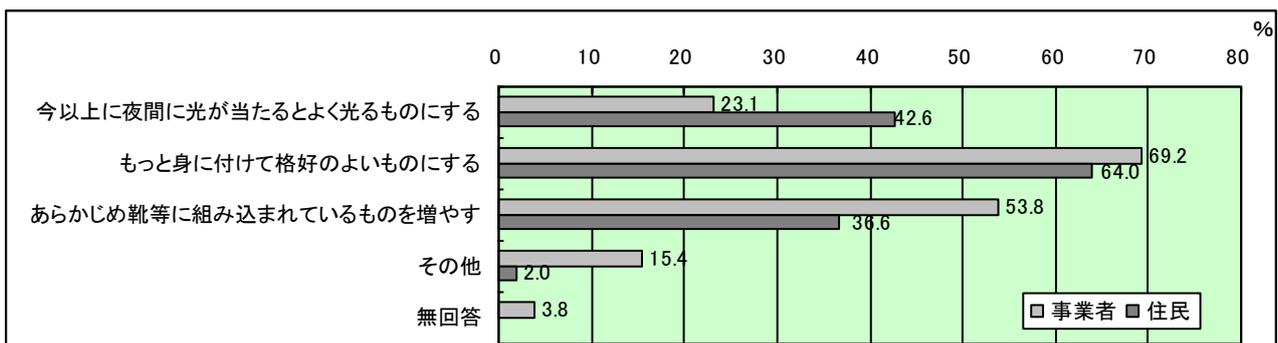
図表 17 事業者の販路と住民の購入しやすい販売場所（複数回答、n=26、n=1,001）



反射材が普及しない理由には事業者・住民共通の認識と、乖離した認識の双方がある

- ・事業者と住民ともに「もっと身に付けて格好のよいものにしてほしい」という点は一致している。
- ・一方、「今以上に夜間に光が当たると良く光るものにする」は住民において、「あらかじめ靴等に組み込まれているものを増やして欲しい」では事業者において割合が高く、乖離がみられる。

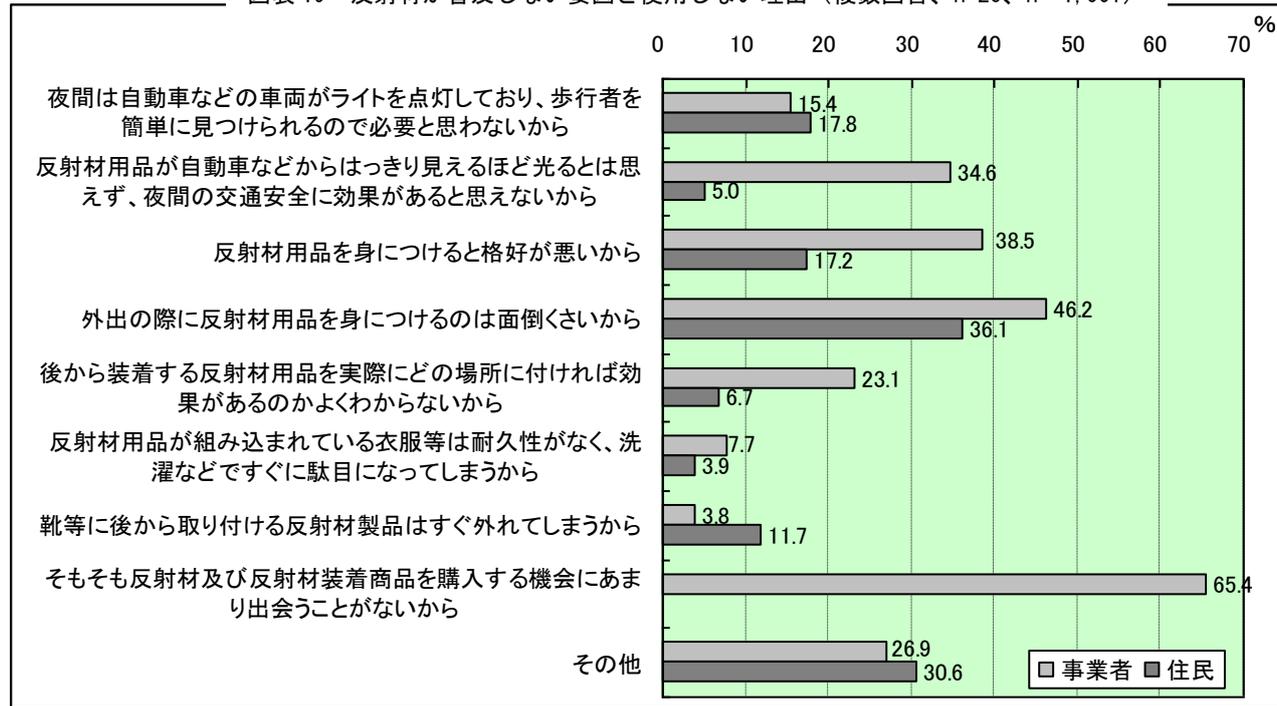
図表 18 反射材製品への改善要望（複数回答、n=26、n=1,001）



反射材が普及しない理由には事業者・住民共通の認識と、乖離した認識の双方がある

- ・事業者と住民共に、反射材用品の着用が手間であることが普及しない一要因であると考えている。
- ・一方、事業者側が反射材が普及しない要因として多くあげている「夜間の交通安全に効果があると思われていない」や「身につけると格好悪い」は、住民意識調査では反射材を使用しない理由として高い割合ではなく、認識の乖離がみられる。

図表 19 反射材が普及しない要因と使用しない理由（複数回答、n=26、n=1,001）



V 諸外国における反射材普及の実態や普及促進施策に関する調査結果

【目的と実施概要】

- * 目的：わが国に比べ反射材の普及が進んでいる欧州各国の反射材装着の普及にかかる実態やその背景となる事故実態や制度等について調査し、今後の方策検討の基礎資料とする。
- * 手法（調査対象国）：文献調査（6カ国（イギリス、フランス、ルウエー、フィンランド、デンマーク、エストニア））

フィンランド、エストニアでは法律で着用が義務化され、フィンランドでは着用率が増加している

- ・調査対象国のうちフィンランド、エストニアでは法律で着用の義務化が規定されている。
- ・フィンランドでは法律施行直後に27%（市街地）であった着用率が2008年には49%に増加している。

図表 20 欧州各国の反射材に関するルール・推奨方策の概要

国名	歩行者				自転車			
	法律		計画		法律		計画	
イギリス	×	×	○	子どもは夜間の反射材着用や携帯を推奨	○	自転車後部に赤色反射板装備義務 自転車前部に白色反射板装備義務	×	×
フランス	×	×	×	×	○	自転車後部に赤色反射板装備義務 車輪に白色・黄色反射板装備義務 ペダルに4個の琥珀色又は黄色反射板の装備 等	×	×
ルウェー	×	×	×	×	—	—	○	施策目標「安全装置の利用を促進する」
フィンランド	○	暗い時間帯に道路を利用する際に、常に適切な反射材の着用義務	○	法律で、夜間における歩行者の反射材着用義務付け	○	自転車前部に白色反射板装着義務 自転車後部に赤色反射板装着義務 ペダルに反射材の装着義務	×	×
デンマーク	×	×	×	×	○	自転車後部に赤色反射板装備義務 自転車前部に白色反射板装備義務 各車輪に1つ以上の黄色・白色の反射材、また、ペダル等に2つ以上の黄色反射板を装備義務	○	反射材を利用することを推奨
エストニア	○	着用義務違反の場合は約50ドル(飲酒では最高約500ドル)の罰金	—	—	—	—	—	—

注釈) ○は規定・記述あり。×は規定・記述なし。—は邦文・英文文献不明のため未確認資料) 各国法規データベースや計画書等より作成

VI 反射材用品の利用促進に向けた課題と対応の方向性

★必要性・有効性への意識向上に向けた取り組み

- ・現状の反射材用品の利用率は低い水準にとどまっている（歩行者用では回答者の約2割程度）。
- ・ただし、その有効性は多くの人が認識しており、面倒、邪魔、格好悪いなど否定的評価は多くない。
- ・一方、反射材用品を使用している人を見たことがある人ほど評価や利用意向が高い。



★映像利用や実演など必要性・有効性を実感できる広報啓発手法の質・量の充実が有効

★利用者のニーズにあった反射材用品の提供に向けた取り組み

- ・モニター調査では反射材用品が十分に光っていると感じていない人も少なくなかった。
- ・反射材用品の改善要望も「もっと格好の良いもの」とともに「もっと光るもの」という意見が多い。
- ・コンビニエンスストア、デパート、スーパーなど日常の買い物の場で購入したいという意見が多い



★より一層夜間安全性向上に効果の高い用品の開発を基本として、利用のシーンに応じてデザインにも配慮した用品を、利用者が購入しやすい形で供給することが必要